

## 第6回教育研究審議会

### 議事概要

開催日：平成23年6月22日（水）

場 所：本部棟3階大会議室

出席者：加藤祐三学長、高田理孝副学長、福田誠治副学長、椎廣行事務局長

大平栄子学長補佐、清水雅彦学長補佐 阿毛久芳研究科委員長、鶴田清司初等教育学科長

牛山恵国文学科長代理、儀部直樹英文学科長、進藤兵社会学科長、大辻千恵子比較文化学科長

杉本光司地域交流研究センター長、稲垣孝博外国語教育研究センター長、相川泰総務課長

欠席者：田中一利理事、重原達也学生課長

#### ■挨拶

加藤学長よりあいさつ

### 議 事

#### 1. 専任教員の公募（初等教育学科）について

○担当より説明、審議の結果、公募要項の7以降の項目について事務局で書式を統一するとし、内容について承認。

- ・選考委員については次回の教育研究審議会にて報告（初教3名、国文1名、社会1名）。

#### 2. 専任教員の採用（国文学科）について（発議）

○担当より説明、審議の結果、提案通り承認。

- ・次回の教育研究審議会にて公募要項を提出。

#### 3. 外国語教育研究センターの提案について

○担当より説明、審議の結果、提案通り承認。

- ・昨年の専任教員の要望で専任教員1名とあったが、特任として現在の非常勤講師を採用することで効果が得られるということでこの案が出されている。特任として加えることで、英語カリキュラムの運用・点検や非常勤の研究等を行ってもらう予定である。
- ・次回の教育研究審議会にて提案手続きを行う。
- ・基盤はプロジェクトDで国際交流センター構想の中にあると言ったが、国際交流センター全体の人員配置がはっきりしない中で、外国語教育研究センター特任教員2名の雇用はどうなのか。  
→センター統合案がでてもこの2名の業務は必須なので影響ない。

#### 4. 平成23年度専任教員の担当科目の取消、非常勤講師の担当科目の追加について

○担当より説明、審議の結果、提案通り承認。

#### 5. 平成23年度非常勤講師の授業担当科目の取消・追加について

平成 23 年度非常勤講師の発議・提案について

○担当より説明、審議の結果、提案通り承認。

#### 6. 平成 23 年度大学院非常勤講師の授業担当科目設置形態の変更について

○担当より説明、審議の結果、提案通り承認。

理由：当初設置形態は前期集中であったが、科目の性質上レギュラーコースとして開講した方が教育効果が高いため。

#### 7. 都留文科大学大学院リサーチ・アシスタント規程（案）について

○担当より説明、審議の結果、一部修正し次回の教育研究審議会に再提出。

・学生を名称を「院生」に統一。

・第 6 条第 2 項の解任について「第 3 号 当該研究プロジェクト等が年度途中で終了した場合」

については、解任ではなく契約終了となるので契約時に院生に伝えておけばいいのではないかと。

### 3 報 告

#### 1. その他

○各プロジェクトについて

・プロジェクト A について高田副学長より中間報告。

現在までに 3 回プロジェクト委員会を行い、今後推薦試験と一般試験と分けて提言していく。7 月の報告では推薦入試について報告をしたいと考えている。一般試験はもう少し先になる。社会学科では試験で面接を課しているため形態が他学科とは異なるが、この枠組み（県外、県内、市内）でいいのか過去 4 年間の希望数・最低点・最高点などを学科別に分析している。

センター利用については初等教育学科の合格者は 15/188 名だった。2 科目利用と 3 科目利用でシミュレーションを行ったところ、合格率は 2 科目 75%・3 科目 74%とあまり差がないことから、3 科目で安定した学力の学生の確保を行いたい。比較文化学科では、結果から見ると十分な効果があったといえない。英語の最低点が初等教育学科の平均点と同じであったことから、もう少し科目利用の仕方や配点を変えると検討していかなくてはならないかも知れない。10 月が最終リミットなのでそれまでに改革の方向を検討していただきたい。山梨県立大学に初等教育学科ができるので、その対応も一緒に考えていく必要がある。

・プロジェクト B について福田副学長より中間報告。

現在、各都道府県の教員退職者予想数を算出している。また、本学ではカリキュラムを自然環境系に統一し自然系の推薦入試を導入したり、環境 ESD プログラムを開始したりと力を入れてきた。今後、これを生かし理科中学免許課程増設を副免として取得できるようにしたい。そのためには、初等教育学科に物理系の専任教員を 1 名置く必要がある。（今回の報告により 7 月中に初等教育学科として理科（物理）の発議をしていきたい。また、それがプロジェクト B では、望ましいということだった。）

次回の教育研究審議会にて物理系の専任教員についての発議資料を提出。7/27（水）午後 4 時よりプロジェクト B による研修会（今後の教職系大学と教職大学院の動向）を行う。

・プロジェクト C について高田副学長より中間報告。

現在までに 4 回プロジェクト委員会を行った。具体的なカリキュラムや開講科目については今から検討していく。次回の委員会は 7/6 に開催予定。

「1 回目：大学の現状について」

「2回目：文部科学省などの外部資料を共通認識を持つために配布」

「3回目：大枠を文章化したものを配布し、出された意見を学科に持ち帰り検討」

「4回目：学科でどのような力をつけて卒業させたいのか」

#### ○社会学科の総括と今後の課題について

環コミができて4年が経ち最初の卒業生を出したということで、社会学科としての総括と今後の課題について報告。報告については、7月上旬に報告書の形で報告を行う。

#### ○防災委員について

防災委員には学内の教職員だけではなく、専門知識のある外部の人にも委員になってもらってはどうか。学内の委員については決まり次第、教育研究審議会メンバーにメールにて連絡。

### 4 その他

#### ○セントノーバート大学との協定について

大平学長補佐よりセントノーバート大学との協定について報告。

- 大学間の交流協定は現在カリフォルニア大学だけであるが、カリフォルニア大学への交換留学はTOEICの点数(550点)条件がとても厳しく、留学したくてもできない学生も多い。そういう学生は、私費留学に回っている。学生が留学できるようそこをクリアしてチャンスを広げていきたい。
- 今回の本学からセントノーバート大学への協定提案は、語学研修(4ヶ月)と正規授業を組み合わせた1年間の留学プランで交渉し、協定書を作成していただいた。セントノーバート大学側からの留学は、本学はカリフォルニア大学から後期に留学生が来ることになっていて、前期に留学生を派遣してくれる大学を探していたので、半期(前期)留学のお願いをした。話し合いの結果、両大学ともに提案を受け入れ協定が成立した。本校にとっていい協定が結べたのではないか。留学派遣の時期はいくつか考えられるが、今後検討する。来年度の後期から学生を留学派遣することが望ましいと考えている。